

(別表 3)

## 肝がん・重度肝硬変（非代償性肝硬変）の診断・認定基準

### 1 ウイルス性であることの診断・認定

(1) 「B型肝炎ウイルス性」であることは、HBs 抗原陽性あるいは HBV-DNA 陽性、のいずれかを  
確認する。

\*B 型慢性肝炎の HBs 抗原消失例を考慮し、HBs 抗原陰性であっても過去に半年以上継続する  
HBs 抗原陽性が認められるものは、含まれることとする。

(2) 「C型肝炎ウイルス性」であることは、HCV 抗体陽性 (HCV-RNA 陰性でも含む) あるいは HCV-  
RNA 陽性、のいずれかを確認する。

### 2 肝がんであることの診断・認定

現在あるいは以前に肝がんであることを、原則として次のいずれかの方法で確認する。ただし、  
「肝がん」は原発性肝がん及びその転移のことをいう。

・画像検査

造影 C T、造影 MR I、血管造影/造影下 C T

・病理検査

切除標本、腫瘍生検

### 3 重度肝硬変（非代償性肝硬変）であることの診断・認定

現在あるいは以前に重度肝硬変（非代償性肝硬変）であることを、次のいずれかの基準で判定  
する。

・Child-Pugh score 7 点以上

・別表 1 の 2 に定める「重度肝硬変（非代償性肝硬変）の医療行為」または、4 に定める「重度  
肝硬変（非代償性肝硬変）治療の医療行為と判断する薬剤等」のいずれかの治療歴を有する。